



南房総のハズシ

千葉県キャリア教育の手引き ～令和5年3月改訂～

キャリア教育の実践に困っていませんか？キャリア教育の定義から実践事例までをまとめた、千葉県版『キャリア教育の手引き』が、令和5年3月に改訂されています。是非ご活用ください。下記URL・2次元コードからアクセスできます。

《URL》

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/career/r4/career-tebiki/career-tebiki-kaitei.html>

《2次元コード》



※オンラインでのみ公開しており、紙媒体の配布はありません。

【表紙】【はじめに】【キャリア教育について】【千葉県のキャリア教育】【キャリア教育「全体計画」様式例】【キャリア教育「年間指導計画」例】【キャリア教育「実践事例」】の7項目を掲載しています。

◇「年間指導計画」例

小学校1年から高等学校3年までの年間指導計画例を掲載しています。「特別活動」「総合的な学習（探究）の時間」「特別の教科 道徳」「各教科」に分けて作成しており、「基礎的・汎用的能力」を色分けして提示しています。

キャリア教育 年間指導計画 小学校5年																							
基礎的・汎用的能力 【人】人間関係形成・社会形成能力 【自】自己理解・自己管理能力 【課】課題対応能力 【キ】キャリアプランニング能力																							
月	特別活動	総合的な学習の時間	道徳	各教科																			
4	・5年生のめあてをもと う。 (キャリア・パスポート) 【自】【課】【キ】 ・委員会や学級係を決めよ う。【人】【自】	・活動計画立案【自】 【課】【キ】 ・1年生を迎える会【人】	・善悪の判断、自律、自由、 と責任【人】	1 学年・教科 中学校1～2年 技術・家庭科、総合的な学習の時間 2 テー マ 「高校・地域と連携した、生産から販売までを意識した農業体験」 3 指導計画																			
「年間指導計画」例				<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">時間</th> <th rowspan="2">ねらい</th> <th rowspan="2">学習活動</th> <th colspan="2">評価</th> </tr> <tr> <th>知 思 態</th> <th>評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>主体的に生物育成の技術について考え、理解しようとする態度を養う。</td> <td>農業系の高校と連携して農作物を栽培する。(①種まき) (技術・家庭)</td> <td></td> <td>○</td> <td>行動観察</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>生物育成の技術に込め</td> <td>農業系高校の先生や生徒</td> <td>○</td> <td></td> <td>ワークシー</td> </tr> </tbody> </table>	時間	ねらい	学習活動	評価		知 思 態	評価方法	1	主体的に生物育成の技術について考え、理解しようとする態度を養う。	農業系の高校と連携して農作物を栽培する。(①種まき) (技術・家庭)		○	行動観察	5	生物育成の技術に込め	農業系高校の先生や生徒	○		ワークシー
				時間				ねらい	学習活動	評価													
知 思 態	評価方法																						
1	主体的に生物育成の技術について考え、理解しようとする態度を養う。	農業系の高校と連携して農作物を栽培する。(①種まき) (技術・家庭)		○	行動観察																		
5	生物育成の技術に込め	農業系高校の先生や生徒	○		ワークシー																		
「実践事例」																							

◇「実践事例」

【「キャリア・パスポート」の有効な活用】【各教科の学びとの関わりを意識したキャリア教育】【幅広い地域住民等（専門人材・保護者・企業等）との連携・協働】の3つのテーマにおける実践例を掲載しています。こちらも「基礎的・汎用的能力」を意識して作成しています。

令和5年度 南房総地域中学生・高校生との交流会

8月9日（水）に千葉県立君津商業高等学校で「南房総地域中学生・高校生との交流会」が行われました。県教育委員会では、中学生と高校生が日頃学校や日常生活の中で考えている事柄や問題について意見交換をし、今後の教育施策や学校運営に反映させるため、「中学生・高校生との交流会」を開催しています。

今年度は君津市と富津市の中学生23名、高校生20名、県職員等が参加し、4つの分科会に分かれて2つのテーマについて話し合いを行いました。参加した中学生の中には、始め緊張している様子の生徒も見られましたが、高校生の進行で活発な意見交換が行われ大変充実したものとなりました。その様子を紹介します。

参加校

県立君津商業高等学校 県立君津高等学校 君津市立上総小櫃中学校 君津市立周東中学校
君津市立八重原中学校 富津市立富津中学校 富津市立天羽中学校 富津市立大佐和中学校

分科会

テーマ①：これからどんな社会になると思うか。そのような社会で活躍できる人は、どのような力を備えているだろうか。そのために、今、学校でどんな学びが必要か。

これからの社会を「AIや科学技術の発展」「グローバル化」「多様性の時代」等と捉え、学校においてどのような学びが必要か意見を出し合いました。「自分と異なる考え、生き方を学ぶことや理解すること」「様々な人との関わり」「グループ学習や話し合う場の設定」などの意見が出されました。変化が絶え間なく起こるこれからの社会では、問題や課題を自分事として考え、他者と協力していくことが大切だと改めて確認していました。

テーマ②：皆さんの学びは、学校の中だけで充実したものになるだろうか。（コロナ禍の経験を振り返りながら）どのような人たち（もの）と関わると学びは充実するだろうか。

自分たちの学びが学校内だけで完結するのかという投げかけから、これからどのような人たち（もの）と関わると学びが充実すると思うか意見を出し合いました。「異なる環境や文化にいる人」「専門的な知識がある人」「様々な困難を乗り越えてきた人」などたくさんの意見が出ました。コロナ禍を経験したことにより、人と人のつながりが大切であることを再確認していました。



【分科会の様子】



【全体会の様子】

参加した中学生・高校生の感想

- 自分たちがこれから生きる社会がどのようになったら一人一人が幸せになれるかなど、普段考えないようなことを共有できたので、自分の学校でも実践したり、考えを共有したりできたらいいなと思いました。（中学生）
- 「どんな社会であっても人とのつながりをなくしてはいけない」という意見が共感できました。ネットが普及し、もろくて弱い繋がりが手軽にできてしまう現代だからこそ、人とのコミュニケーションを大切にしていきたいと思います。（高校生）